

Prevalence and Risk Factor of Diabetic Foot Ulcers in a Regional Hospital, Eastern Indonesia

メタデータ	言語: eng 出版者: 公開日: 2017-10-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/45322

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



平成 28 年 2 月 22 日

博士論文審査結果報告書

報告番号

氏 名 Saldy Yusuf

論文審査員

主 査 (教授) 木村 留美子

副 査 (教授) 須釜 淳子

副 査 (教授) 大桑 麻由美



論文題名 Prevalence and Risk Factor of Diabetic Foot Ulcers in a Regional Hospital, Eastern Indonesia (東インドネシア地域病院における糖尿病足潰瘍の有病率とリスクファクター)

論文審査結果 (論文内容の要旨及び審査結果の要旨: 1000字以内で記入)

【論文内容の要旨】

インドネシアの糖尿病罹患率は世界トップ10に数えられるほど多く、重篤な合併症の一つである糖尿病足潰瘍(Diabetic foot ulcer: DFU)を有する者も多い。DFUは末梢神経障害と末梢血管障害を起因とする病態であるが、インドネシアの民族性、治療環境、生活様式をふまえてリスク因子を抽出する必要がある。本研究は東インドネシアにおけるDFU前駆状態(at risk)とDFUの有病率を調査し、それぞれのリスク因子を明らかにした。研究デザインは横断観察研究、Strengthening the reporting of observational studies in epidemiologyに準拠し実施した。調査期間は2013年5月から2014年2月であった。調査施設は東インドネシアのマカッサルの市中病院(834床)の内科病棟と外来で実施した。対象者は18歳以上の2型糖尿病患者249名であった。診療録から基本属性・糖尿病のコントロール状態を抽出し、臨床所見(皮膚症状、関節変形)と末梢神経障害・末梢血管障害は直接アセスメントを行った。足に関するセルフケア、家族からのサポートについて質問紙法を用いてインタビュー、糖尿病に関する風習・スピリチュアルについては自由回答を求めた。結果、at riskの有病率は55.4%(95%CI: 53.7%-57.0%)、DFUの有病率は12.0%(95%CI: 10.3%-13.6%)であった。ロジスティック回帰分析の結果、at riskのリスク因子は、年齢(OR 1.04; 95%CI 1.005-1.074)、毎日の足の観察(OR 0.36; 95%CI 0.186-0.703)であった。一方、DFUのリスク因子は、インスリン療法(OR 9.37; 95%CI 2.240-39.182)、靴(OR 0.05; 95%CI 0.007-0.294)、「糖尿病は病気である」という信心(OR 0.04; 95%CI 0.004-0.326)、「糖尿病は神からの試しである」という信心(OR 0.13; 95%CI 0.027-0.598)であった。

【審査結果の要旨】

本研究により東インドネシアのat risk及びDFUの有病率は諸外国に比して高いことが明らかとなった。これらに関連する因子として足を毎日観察するという日常生活行動や糖尿病に関する信心が示唆された。以上の結果は今後のインドネシアにおける糖尿病足潰瘍の予防に向けた療養指導に還元できる。審査においては質疑応答では明確に上記の内容を説明した。以上、学位請求者は本論文の審査及び最終試験の状況に基づき、博士(保健学)の学位を授与するに値すると評価する。